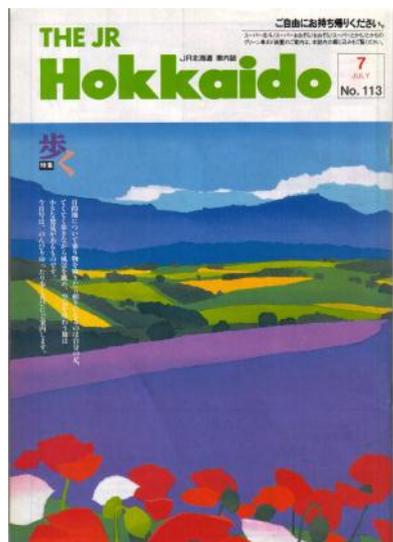


# 出でよ、 公園のタイガー・ウッズ！

「THE JR Hokkaido」No.113 1997.7



北海道で公園に集う老若男女を見たらパークゴルフと思え、というくらい、この新しいスポーツの人気はすごいらしい。今や、愛好者の数、30万人。日の出を待ちわびて出勤間際までプレイする者あり、片道4キロメートルの道を自転車で通う91歳のおじいさんあり、道産子を熱くするパークゴルフとは何物なのか。

ルールは簡単だ。通常4人1組でそれぞれが自分のボールを打ち、いかに少ない打数でカップに入れられるかを競う。1ラウンド18ホール、コースの全長は長くても1キロメートル程度なので体力の差が気にならない。つまり年齢性別を問わず勝負できるというわけだ。

道具は、ゴルフクラブより少々ぼってりとしたクラブが1本きり。ほかにボール1個とボールを乗せるティーがあれば誰でもすぐに始められる。無料のコースが多いから懐も全く痛まない。あくまでも個人競技なので、自分のミスがチームの足を引っ張ったなどとクヨクヨすることもない。健康増進、世代間のコミュニケーション、遊休地の有効利用にと、いいことづくめなのである。

パークゴルフは昭和58年に十勝の幕別町で生まれた。その後、またたく間に各地に飛び火し、昭和62年には本家・幕別町に国際パークゴルフ協会が発足。現在、全国に17支部があり、ハワイ、サイパンなどにもコースができるという発展ぶりだ。そんな一方で解説書には「キタキツネがボールをくわえて行ったらどうす

